

さいたま

SAITAMA

埼玉県の遺跡と出土品の情報誌

No. 56

特集 縄文時代の土木工事
—埼玉の環状盛土遺構—

さいたま発掘情報 (2012年1月~12月)

平成24年度文化財収蔵施設 収蔵資料

まいぶん探訪

宮代町郷土資料館

特集

『縄文時代の土木工事—埼玉の環状盛土遺構—』

低地を望むやや奥まった高台の縁に、中央の窪地を取り囲むように堤防状の高まりが巡る不思議な遺跡があります。この高まりは、縄文時代後期～晩期（約3500年～3000年前）にかけて造られた「盛土遺構」と呼ばれるもので、縄文人が土を盛り上げた土木工事の跡です。盛土の中からは大量の土器・石器が出土し、住居跡や墓壇（墓穴）なども見つかります。特に、環状や馬蹄形の盛土は「環状盛土遺構」と呼ばれ、県内でも調査事例が増えています。ここでは、その不思議な遺構の謎に迫ってみます。

1 環状盛土遺構とは？

環状盛土遺構は、国指定史跡の栃木県小山市寺野東遺跡の調査で内容が明らかになりました。寺野東遺跡では、中央の窪地を削ったローム土を何度も周囲に盛土しているのが、断面観察で確認されました。また、窪地ではマツリを行った場所が、盛土の内外では住居跡や水場遺構などの生活遺構が見つかりました。盛土は途切れながらも環状に巡り、推定外径は約165mでした。これらのことから、環状盛土遺構は、次のような特徴があげられます。

- ①盛土が確認されること。
- ②中央の窪地などを取り囲むこと。
- ③住居跡や墓などの生活遺構が伴うこと。
- ④マツリを行う場所が伴うこと。
- ⑤盛土の外径が約150m前後の環状や馬蹄形状のもの。

盛土は住居などの生活の跡の上にも行なわれ、その繰り返して高さや大きさが増していきます。盛土は、結果的なものとするか、意図的なものとするか意見の分かれるところですが、大量の土を動かしていることから、大がかりな縄文時代の土木工事と言えるでしょう。

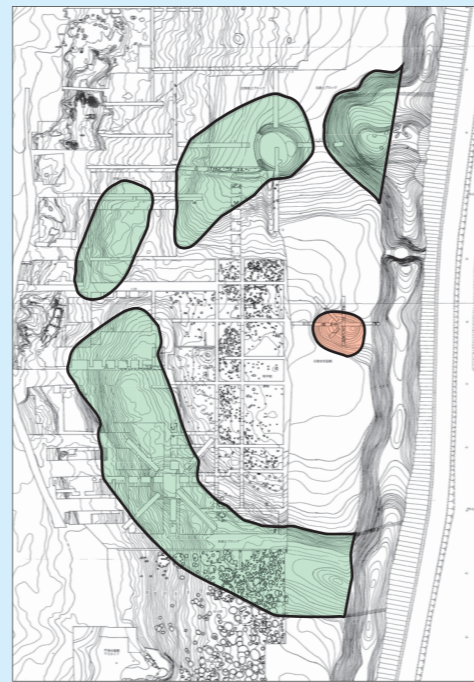
2 長竹遺跡の環状盛土遺構

加須市大越地区にある長竹遺跡は、加須低地の埋没ローム台地上に立地し、利根川の氾濫土で丸ごと覆われていました。細長い調査区内に2ヶ所の盛土が確認され、上流側を「北盛土」、下流側を「南盛土」と呼んでいます。現在の地形からも、中央部に当たる調査区西側の水田が窪み、周辺に高まりが見られる、典型的な環状盛土遺構であると見て取れます。その大きさは、推定外径約150mです。



長竹遺跡空中写真

北盛土では中央の窪地にかかる斜面で、縄文時代晩期（約3000年前）の墓壇群が発見されました。南盛土では厚さ約2mの盛土が確認され、かつてない程の大量の土器や石器が出土しました。また、床面が赤く焼けた住居跡や墓壇などが盛土に覆われて何重にも重なって発見されました。したがって、盛土全体が生活の場所であったことは明らかです。このような状態で盛土内の遺構が明らかにされたのは、全国的にも珍しいことです。



寺野東遺跡全体図（報告書より）



調査している範囲
調査区（A区）

北盛土

南盛土

想定される盛土の範囲

人面付注口土器

埋蔵

犬形土製品



南盛土の断面



北盛土の調査風景

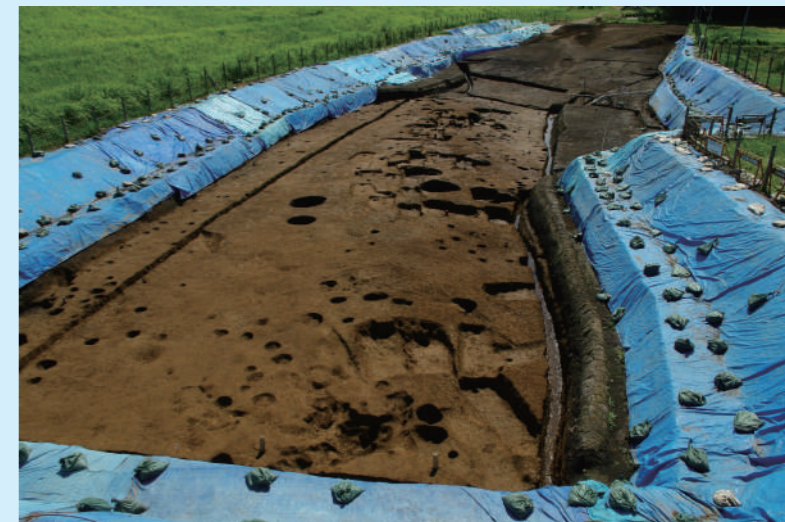
ミミズク土偶



南盛土内の床面の焼けた住居跡（一辺 10m）

3 長竹遺跡の墓壇群

北盛土の内側では中央窪地へ移行する斜面で、晩期の墓壇約60基が発見されました。墓壇は縦2m前後、横90cm前後の長方形でローム層にしっかりと掘り込まれていました。穴の大きさから、体を伸ばした状態で埋葬（伸展葬）したと推定されます。頭と思われる位置からは、供えられたと思われる土器が完全な形で出土しました。実際、南盛土内の墓壇からは伸展葬の埋葬人骨が出土しており、頭の近くに完形の注口土器が置かれていました。



北盛土の墓壇群



北盛土の墓壇群遺物出土状況



北盛土の墓壇



南盛土の埋葬人骨

墓壇群はいくつかのブロックに分かれており、縦や横に重なる場合にも規則性が見られます。埋葬に関する何らかの強い規制が働いていたものと推測されます。墓壇の底には2か所の小さな穴があり、墓の存在を示す施設か墓標などの存在が予想されます。

埼玉県の環状盛土遺構

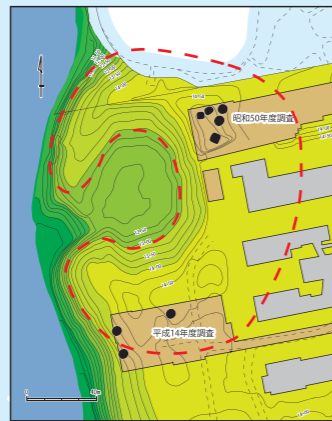
近年、埼玉県内でも縄文時代後・晩期の盛土遺構の調査事例が増えています。環状盛土遺構という呼び名が定着する以前の調査でも、その可能性の高い事例がありました。それらも含めて埼玉県の環状盛土遺構についていくつか例を紹介します。

(1) 蓮田市 雅楽谷遺跡

場所 蓮田市黒浜地区 元荒川とその支谷にはさまれた白岡・黒浜台地の縁に立地
調査概要 昭和50・51年度 平成14年度
 中央部径45mが円形に窪み、台地肩部に盛土が巡る。現存盛土の高さ約1m前後、窪地から盛土上部の比高差約3m、盛土の径約160m。住居跡8軒、土壌50基その他を検出。
遺物 土壌一括遺物が県指定文化財。多量の土器・石器、土偶、土版、耳飾り、その他。



空から見た雅楽谷遺跡



雅楽谷遺跡全体図

(2) 久喜市 小林八束1遺跡

場所 久喜市菖蒲町小林地区 元荒川・星川・野通川等で開析された標高10m前後の埋没台地上に立地
調査概要 平成24年度
 細長い調査区内を横切る、裾幅約30mの盛土を確認。盛土の北側を東流する谷を挟んだ微高地からは、土偶などを集積した祭祀遺構を検出。盛土は高さ0.8m、谷低から盛土上までの比高差約2m、遺構確認面は5面あり、住居跡及び数多くの土壌を検出。環状にならない可能性もある。調査は継続中。
遺物 祭祀遺構から土偶、石棒、石剣、岩版、耳飾りなどが出土。



ミミズク土偶

祭祀遺物集中地点



祭祀遺構

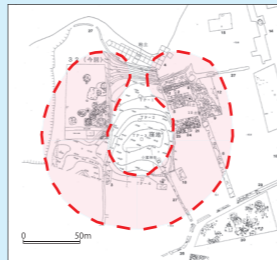
南盛土

空から見た小林八束1遺跡



(3) さいたま市 馬場小室山遺跡

場所 さいたま市緑区三室地区 見沼低地から500mほど入った台地縁部に立地
調査概要 第32次にわたり調査
 中央部の径約50mの袋状窪地を囲み、周囲に盛土が巡る。後期後半から晩期前半は、約100mの範囲に遺構が集中。盛土の中に住居跡などの多数の遺構が重複。完形土器が多数出土する祭祀的な巨大土壌3基を検出。
遺物 巨大土壌に埋納された時期幅のある完形土器群が著名。



馬場小室山遺跡全体図



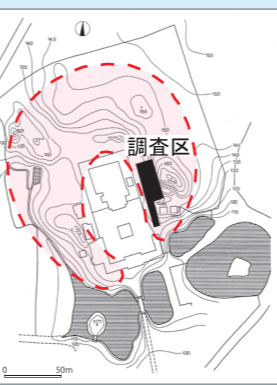
盛土断面図



調査風景

(4) さいたま市 氷川神社遺跡

場所 さいたま市大宮区高鼻町地区 見沼低地から西へ約1km入った小支谷の台地上に立地
調査概要 平成24年度
 氷川神社本殿を取り囲むように、南側を開口部とした盛土が途切れながら馬蹄形状に巡る。湧水とそれに続く池が盛土南側を囲む。盛土は推定径約170m、中央窪地との比高差約4m。盛土は後期中頃から晩期前半まで行われ、住居跡16軒、土壌55基が重層。中央窪地にかけての斜面に土壌が集中。
遺物 盛土内から多量の土器・石器、土偶、耳飾りなどが出土。



氷川神社遺跡全体図



縄文後期住居跡



調査風景（盛土断面で住居跡等が確認できる）

(5) 伊奈町 本上遺跡（氷川神社裏遺跡）

場所 北足立郡伊奈町本町地区 綾瀬川低地に西から開口する小支谷の谷頭部南側に立地
年度概要 平成24年度
 中央窪地部からの湧水を取り囲み盛土を形成。台地際に氷川神社本殿が建ち、本殿裏を中心に盛土が巡る。盛土は鳥居付近にも認められ、推定径約180m、中央窪地との比高差約2m。後期から晩期にかけての住居跡、土壌を検出。
遺物 多量の土器・石器、土偶、耳飾りなど。



ミミズク土偶

縄文土器

本上遺跡調査区全景



本上遺跡の範囲

(6) 白岡市 清左衛門遺跡

場所 白岡市上野田地区 隼人堀川沿いの日川低地に開口する小支谷の谷頭付近に立地。
調査概要 第7次にわたり調査
 遺跡の全体形は不明であるが、中央窪地を中心として、後期から晩期の住居跡などが巡る。集落の大きさは推定径約150m、中央谷部から台地までの比高差は約3m。確実な盛土は確認されていないが、削平された可能性が高い。
遺物 墓塚から完形土器が出土。多量の土器・石器、土偶、耳飾りなど。



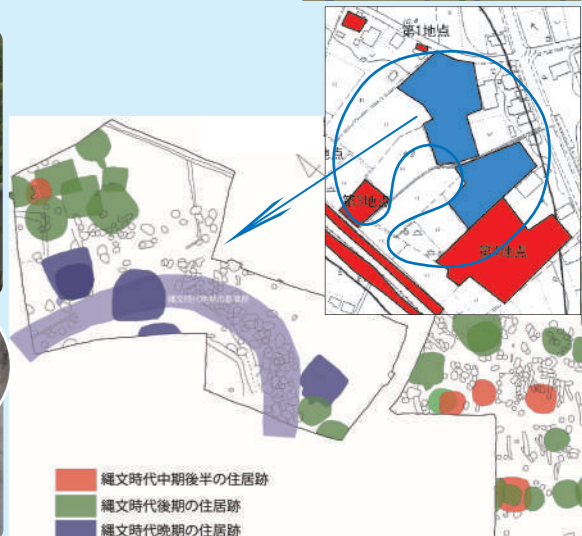
第4区全景



注口土器



第240号土壌遺物出土状況
 第236・237号土壌遺物出土状況



清左衛門遺跡第4区

環状盛土遺構は、住居、マツリの場所、墓などの様々な施設が複合した集落全体の姿と考えられます。この大量の土を動かす土木工事の背景には、人々の団結したムラの姿がうかがえます。中期の環状集落とよく似ていますが、人が集まり大きなムラを営む時は、環状か馬蹄形に形を整えるのが縄文人の習性だったのでしょか。

また、環状盛土遺構は、近くに神社がある場合が多いですが、これは盛土の特異な形状ゆえに後世になって神聖な場所と意識され、傍らに本殿が建てられたからなのでしょう。謎は尽きません。

住居の中から貝塚出現!!

① 南台遺跡 (春日部市)

南台遺跡は、下総台地西端部に立地しています。今回の調査では、縄文時代前期中頃の貝塚をともなう住居跡が発見されました。

一般的に貝塚は、貝をはじめ食料の残りを廃棄した場所と考えられていますが、南台遺跡ではハマグリ主体の貝層中に、焼土や破碎された焼貝の層が含まれています。このことから、この貝塚は、堅穴住居廃絶後、何らかの目的で貝を焼いた跡であると考えられています。

調査機関：(公財) 埼玉県埋蔵文化財調査事業団



貝塚をともなう住居跡



焼けた貝層の断面



調査風景

縄文中期の住まいは・・・

② 加能里遺跡 (飯能市)

区画整理事業にともなう発掘調査で、柄鏡形の敷石住居が発見されました。

住居に施された敷石は、床面を中心にかなり精密に行われ、外周部分には、偏平な礫が積まれていました。(壁際の土留のような役割をもつのでしょうか。)

埋められた甕(埋甕)の特徴から、縄文時代中期終末のものと考えられます。

調査機関：飯能市教育委員会



敷石住居跡



敷石住居跡下層



柄鏡形敷石住居



炉跡

さいたま発掘情報 2012年1月~12月



縄文の低地あらわる!!

③ 南鴻沼遺跡 (さいたま市)

南鴻沼遺跡は、鴻沼川東側の低湿地に立地する「泥炭層遺跡」です。

23年度から調査が進められています。東側調査区では、縄文時代中期から後期の水場遺構が2か所確認されました。西側調査区では、丸木舟3艘が出土しました。このうち2艘は上を向いた状態で出土し、地層や舟内の土器から、縄文時代中期から後期のもと考えられます。残りの1艘は、縄文時代晩期のもので、舟底を上にして出土し、未成品でした。

また遺物は、櫂(オール)や木製容器の未成品、漆器、土器などが多数出土しています

調査機関：さいたま市遺跡調査会



丸木舟出土状況



調査風景



櫂の未成品出土状況



水場遺構

弥生の王の墓?

④ 吹上原遺跡 (和光市)

吹上原遺跡は、白子川左岸に面した台地上に立地しています。今回の調査では、縄文時代前期・中期の住居(20軒)や弥生時代後期から古墳時代前期にかけての方形周溝墓(15基)、古墳(2基)が発見されました。隣接する吹上遺跡で確認された弥生時代後期の環濠集落に対応する、墓域と考えられています。

また古墳からは、ガラス小玉も出土しました。

調査機関：和光市教育委員会



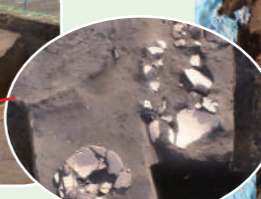
土器出土状況



古墳出土のガラス小玉



第3号方形周溝墓全景



土器出土状況



吹上原遺跡全景

石室と大刀を発見!!

⑤ 楽中遺跡 (桶川市)

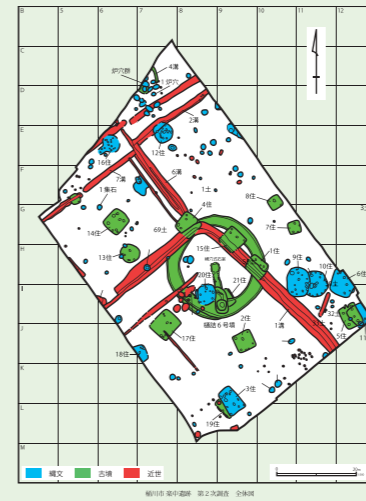
楽中遺跡は、桶川市川田谷の荒川支流(江川)を望む台地上に立地しています。今回の調査では、縄文時代の堅穴住居跡や古墳時代の堅穴住居跡の他、古墳跡も発見されました。

古墳跡(樋詰6号墳)は、調査区のほぼ中央に位置しており、墳丘はすでに削平されていました。調査の結果、古墳は直径約16mの円墳で、埋葬施設は複室構造の横穴式石室であることがわかりました。また、大刀も出土しました。

調査機関：(公財) 埼玉県埋蔵文化財調査事業団



石室調査風景



調査区全体図



大刀出土状況



樋詰6号墳全景



樋詰6号墳石室

横穴式石室を発掘!!

⑥ 新山古墳群 (坂戸市)

新山古墳群は、坂戸市清水町に位置しています。現在までに11基の古墳が確認されていますが、現存しているのは、4基のみです。

今回、調査された9号墳では、墳丘の中心から、人を埋葬した施設である石室（横穴式石室）が発見されました。天井部分はずでに破壊を受け、副葬品も出土しませんでした。石室の特徴から7世紀頃（約1,400年前）のものであると考えられています。

調査機関：坂戸市教育委員会



調査区全景



調査風景



石室調査風景



9号墳石室

出現！古代の瓦工場

⑦ 新沼窯跡 (鳩山町)

鳩山町大字泉谷にある新沼窯跡は、南比企窯跡群を構成する支群のひとつです。国指定史跡として保存・活用することを目的とし、平成22年から調査が進められ、26基の窯跡が確認されました。

調査の結果、多くの郡名瓦が発見されました。窯の造られた時期は、8世紀後半と考えられます。国分寺造営期の武蔵国を考えると重要な遺跡といえます。

調査機関：鳩山町教育委員会



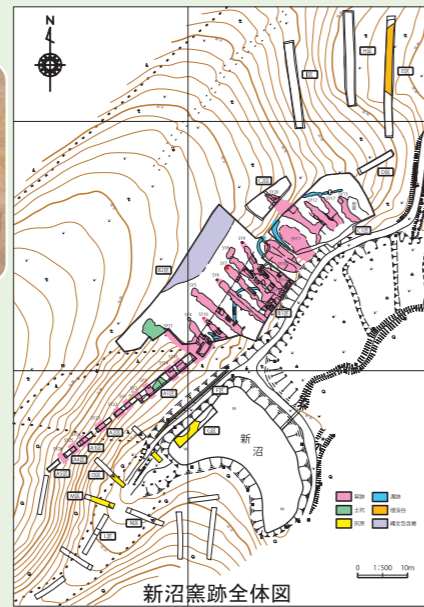
郡名瓦「榛・豊・中」



第12号窯跡遺物出土状況



調査風景



新沼窯跡全体図

(第45回埼玉考古学会遺跡発掘調査報告会発表要覧より)



古代の神社は・・・

⑧ 上敷免森下遺跡 (深谷市)

遺跡は、深谷市上敷免字森下地内、現唐沢川西方約50mの旧自然堤防上に立地しています。今回の第2次調査では、弥生時代後期の住居跡をはじめ、古墳時代、奈良・平安時代の住居跡も発見されています。

また今回は、柵列による区画施設が検出され、神社遺構の可能性が考えられています。近接する祭祀遺構とともに、古代の神社構造や祭祀形態を考える上で貴重な遺跡となっています。

調査機関：深谷市教育委員会



柵列による区画施設



祭祀遺構



上敷免森下遺跡全体図 (遺跡見学会資料より)



区画施設と重複する噴砂出土土器



調査区全景



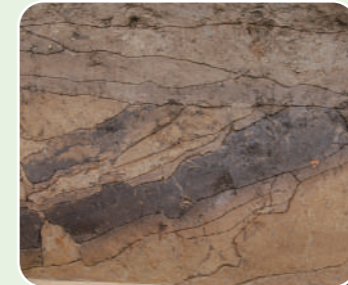
三成の夢のあと

⑨ 石田堤遺跡 (行田市)

行田市堤根地区で行われた発掘調査で、石田堤の一部が発見されました。石田堤は、豊臣秀吉の小田原攻めに際し、石田三成によって忍城攻略を目的に築かれた堤といわれています。堤は上半部が崩れていましたが、基礎部分はしっかりと残り、埴輪や土器の破片も確認されました。

このことから、堤は付近の古墳や遺跡の土を使用して築かれたと思われます。当時の築堤方法を知る上で貴重な調査となりました。

調査機関：行田市教育委員会



断面



確認された石田堤



調査風景

洪水とともに生きる

⑩ 栗橋関所番士屋敷跡 (久喜市)

遺跡は江戸時代、栗橋宿の関所に勤務した番士（役人）の屋敷跡です。

番士屋敷は4軒あり、そのうちの3軒が今回の調査対象となりました。いずれも高い盛土の上に建物が建てられていましたが、調査の結果、盛土は繰り返し行われたことがわかりました。利根川の洪水被害のたびに盛土を高くしたと思われます。また、多くの古文書類が残っており、発掘調査の内容を検証できる貴重な遺跡です。

調査機関：(公財) 埼玉県埋蔵文化財調査事業団



空から見た番士屋敷跡



調査区全景



加藤家土壇断面



遺物出土状況

平成24年度 文化財収蔵施設 収蔵資料

埼玉県文化財収蔵施設には、県内各地の発掘調査で出土した資料が約40万点収蔵されています。発掘調査で発見された資料は、報告書刊行が終了すると文化財収蔵施設に収蔵され、学校教育、生涯学習、博物館等、様々な場での活用が図られています。

今回は、最新の収蔵資料のほか、すでに収蔵されている資料の中からも御紹介します。

新田東遺跡 (毛呂山町)

この土器は、キャリパー形深鉢と呼ばれる、縄文時代中期(約4,500年前)の土器です。

また下の写真は、この土器の口縁部や胴部に施された文様の展開写真です。

縄文土器の豊かな文様表現を知ることのできる貴重な資料です。
事業団報告書第390集『新田東遺跡』



キャリパー形深鉢



土器の展開写真

反町遺跡 (東松山市)

反町遺跡では、5回に及ぶ発掘調査の結果、古墳時代前期(約1,700年前)を中心とする350軒以上の住居跡が確認されました。その内の一軒は、水晶製勾玉、緑色凝灰岩製管玉を製作した工房の跡であることがわかりました。



玉作工房跡出土玉未製品(水晶)



玉作工房跡出土玉未製品(緑色凝灰岩)

作りかけの未製品や剥片など2,000点以上の破片が確認されました。

写真はその一部です。県内では、調査例の少ない貴重な資料です。

事業団報告書第393集『反町遺跡』Ⅲ

三竹遺跡 (川島町)

平安時代の須恵器で、底部に墨書きされた文字をもつ「墨書土器」です。

この土器には、「玉」の字が書かれていますが、この他に「貴」「長」の文字が書かれた土器が出土しています。

この時期、三竹遺跡周辺に、地域の拠点となった集落が存在した可能性が考えられています。

事業団報告書第384集『三竹遺跡』



底部に「玉」の文字をもつ墨書土器

内郷遺跡 (行田市)

板碑は、中世にお墓の供養塔として建てられたものですが、宝篋印塔や内耳鍋などとともに、投棄された状態で近世の井戸跡や溝跡から発見されました。

内郷遺跡は、埼玉古墳群が立地する台地の南端に位置し、周辺に館跡が存在した可能性が指摘されています。

事業団報告書第388集『船原・内郷通／内郷／窪』



板碑

上敷免遺跡 (深谷市) 出土弥生土器

写真の土器は、昭和49年に埋葬用と考えられる土壌から発見された土器、28個体の中の一つです。当施設には、24個体が収蔵されています。

この土器は、高さ63.8cmもある大型の壺形土器で、他の土器と共に上敷免式土器と呼ばれています。埼玉県の弥生時代中期を代表する土器型式です。

全体の形を見ると胴部の肩が張りを持ち、太い筒状の頸部が付くなど縄文時代以来の古い形を踏襲しています。

文様は棒状の工具でアーチ形と縦方向の羽状文様を描くことを基本としています。文様を描き始めた部分か、あるいは正面を示すものか、羽状文が胴部の中央(写真右端)に残っています。3段に区画された文様の配置は、それぞれ連動して展開しています。

これらの文様や施文領域の系統、分布などを細かく分析することによって、埼玉県の弥生時代の様子を明らかにできる貴重な資料と言えます。



羽状文の拡大

まいぶん探訪

宮代町郷土資料館（宮代町）



展示室内のようす



前原遺跡出土
岩偶

宮代町郷土資料館は、「恵まれた風土と人々の文化の創造～水と緑に生きる～」を基本テーマに、平成5年11月13日に開館しました。

資料館では、宮代町にはじめて人々が移り住んだ旧石器時代の展示から、前原遺跡出土の縄文土器や石器・岩偶、埼玉県内最古の古墳時代の鍛冶工房跡が発見された山崎山遺跡出土の鉄製品などが展示されています。その他にも、西光院阿弥陀如来坐像や円空仏（役行者）など、古代・中世・近世・近代・現代と通史的に宮代町の歴史を学べる展示となっています。

野外展示

西原自然の森の中で、野外展示も行われています。屋外展示では、縄文時代の復元住居をはじめ、町指定文化財である旧加藤家住宅、旧齋藤家住宅、旧進修館など、自然のおりなす四季の風景とともに、見学することができます。



縄文時代前期の復元住居



旧加藤家住宅



旧齋藤家住宅



旧進修館

特別展（年1回）、企画展（年3回）も開催されています。詳細は資料館にご確認ください。



宮代町郷土資料館のご案内

- 住所 〒345-0817 南埼玉郡宮代町西原 289 番地
- 開館時間 午前9時30分から午後4時30分まで
- 休館日 月曜日（祝日の場合は開館）、祝日直後の平日、年末年始（12月28日から1月4日まで）、館内整理日
- 入館料 無料
- 交通案内 東武鉄道スカイツリーライン（東武伊勢崎線）東武動物公園駅、姫宮駅より徒歩20分
東北自動車道久喜 I.C より約20分
- 問い合わせ 宮代町郷土資料館 電話：0480-34-8882

